



# 昇華の天地

古川美術館  
特別展

## 濱田樹里 日本画展

この度、古川美術館では、「濱田樹里 日本画展 昇華の天地」を開催致します。  
濱田樹里は花や自然の姿を借り、いのちの循環を超大型作品で描き出します。

これまでの古川美術館では見たことのないような展示方法で、展示室いっぱいに  
大型作品を展示します。大型作品に包まれながら、身体全体で濱田樹里のあふれ  
るいのちのエネルギーを感じていただきたいと思います。

濱田が大学・大学院時代に制作した人物画も初展示します。初期人物画が現在の  
ような花や自然物へとどのように展開していったのかもよくわかる内容となっ  
ています。

是非貴媒体にてご紹介いただきたく、お願い申し上げます。

【お問い合わせ】 公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 爲三郎記念館  
電話 052-763-1991 FAX 052-763-1994(学芸課)  
〒464-0066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地 ※地下鉄東山線池下駅下車・徒歩3分

担当学芸員 山内 綾子( [a\\_yamauchi@furukawa-museum.or.jp](mailto:a_yamauchi@furukawa-museum.or.jp) ) 広報兼務

## 見どころ① これぞ濱田樹里 大迫力の展示空間

濱田樹里と言えば超大型作品で知られる作家。そんな15mを超えるを大型作品2点を1階展示室に展示します。

1点は2012年制作の「起源の詩」、もう1点は2022年制作の「臨界の大地」。この二作の間にある10年の年月は、赤色の花を中心にした作品「起源の詩」から、赤色や花だけではなく、天と海をイメージする青色が画面を彩る作品《臨界の大地》へと変化し、濱田のスケールがより大きく、広がったことを感じさせます。展示室いっぱいに展開された濱田樹里の世界をまずはご堪能下さい。



「起源の詩」2012年 200×1680 (cm)



「臨界の大地」 2022年 4点1組 高260cm×幅60cm×8枚、  
高217×幅70×16枚

高さ260cm×幅60cmのパネル赤・青各4枚と、高さ217cm×幅60cmのパネル赤・青各8枚を屏風状につなげて展示します。

## 見どころ② 濱田樹里の原点 初期人物画から花へ (超大型作品の夜明け前)

濱田の画業の最初は写実的人物画から始まります。愛知県立芸術大学時代の人物制作の課題で、裸婦デッサンをしたことをきっかけに、人体のフォルムや形の強さなどを追い、群像としての人体表現に行きつきます（「丹」）。大学院時代にその視野をさらに広げ、人間や自然界に宿るすべての生命は、各個で存在するのではなく、大地と大空を循環しているのではないかと、人間も植物やその他の生命と共存しており、生と死は同根であり、二つは表裏一体となりながら天と地の間をほとぼしるエネルギーとして輪廻（循環）している。この天啓にも似た気付きにより、人物は画中で種子のような核となり、その周りに自然を象徴する花が配される構図へと一変しました（「心」）。そして次第に人物は画面から消え花が画面を覆いつくします。しかし、画面の人物は消滅したのではなく、画面の外、鑑賞者として再臨するのです。「陸の花」の前に立つ鑑賞者は、いつしか作品中に取り込まれていくような感覚を受けることでしょう。



「丹」1998年 150号



「心」2000 100号



「陸の花」2003年 180×455 (cm)

## 見どころ③ 広がる濱田樹里の世界

濱田が大型作品を描くようになって、最初は画面からあふれんばかりの花や植物が描かれていましたが、次第に花そのものの姿を離れ、大地、天空、海、日月など、地球規模の世界観の中に花に仮託された命がたゆたうようになります。特に「地・天・球」は大地と日月の風景画を描くような、空間を描くような気持ちで描いたといい、日月を入れることで時の流れをも描き込んだ、濱田の新しい境地を示す作品です。



「地・天・球」 2017年 200×1680 (cm)



「地の起源」2012年  
250×400《VOCA2012展》出品

「地・天・球」は大地と太陽と月の風景画を描くような、空間を描くイメージで描いたといいます。画面中央上のオレンジの部分が太陽。画面左端の銀色が月です。太陽と月を描くことで時の流れも描き込むという、濱田の新しい境地を示す作品です。モチーフに動きを持たせ、日月もその下にある大地も動き、作品を見る視点も動くように描いているので、それまでの平面性の強い表現から、空間と時間それぞれの動きを意識した表現に変化していったという、濱田の重要な転換期の作品になります。

## 展覧会 基本情報

会 期 2023年10月21日（土）～12月17日（日）

休館日 毎週月曜日  
会 場 古川美術館

主 催 公益財団法人 古川知足会  
後 援 愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、中日新聞社、日本経済新聞社、CBCテレビ、名古屋造形大学、スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社

協 力 株式会社 岩野平三郎製紙所、コバヤシ画廊

観覧料 共通券入館券 大人1,000円 高・大学生500円 中学生以下無料  
美術館単館券 大人800円 高大生の単館券設定はなし。

但し、愛知県が県政150周年のレガシーとして、2023年から11月27日を「あいち県民の日」に制定し、県民の日までの一週間を「あいちウィーク」とし、その1週間の中で公立学校において「県民の日学校ホリデー」を創設したのに伴い、11/21（火）～11/27（月）（当館の場合は26日まで）までの期間、高大生を無料入館と致します。

お問い合わせは古川美術館 学芸課 山内まで 052-763-1991



美術と数寄屋のおもてなし  
FURUKAWA Art Museum  
古川美術館

# 濱田樹里 プロフィール

1973年 インドネシア生まれ  
1992年 愛知県立旭丘高等学校美術科卒業  
1997年 愛知県立芸術大学 美術学部日本画専攻卒業  
(卒業制作 買い上げ賞／桑原賞)  
1999年 愛知県立芸術大学大学院 美術研究科修了  
(修了制作 買い上げ賞)  
2000年 愛知県立芸術大学大学院 研修生修了

現在 名古屋造形大学 教授



濱田樹里 (撮影：漆脇美穂)

## 《受賞暦》

2010年 名古屋市芸術奨励賞 新人賞 (平成21年度)  
2012年 第5回東山魁夷記念日経日本画大賞展 大賞  
2012年 第28回 名古屋市文化事業団芸術創造賞 (平成24年度)  
2013年 愛知県芸術文化選奨 文化新人賞 (平成24年度)

## 《パブリックコレクション》

愛知県美術館 「時空霊 TOKIDAMA」 200×1680cm 2013年制作  
平塚市美術館 「流・転・生」 200×1680cm 2009年制作  
メナード美術館 「花潮」 69.7×200.2cm 2018年制作  
高橋コレクション 「焰にたつ華」 200×1680cm 2005年制作  
「地の記憶」 200×1680cm 2011年制作  
「蒼の地の森から」 200×1680cm 2015年制作  
「創世譜」 260×480cm1点、217×560cm2点 (3点1組) 2022年制作  
「創世譜 ～歓喜～」 260×480cm1点、217×560cm2点 (3点1組) 2023年制作  
愛知県立芸術大学 「畝」 卒業制作  
「地の恵み」 修了制作

濱田樹里は1973年、父親の仕事の関係でインドネシア・スマトラ島に生まれます。3歳で一度帰国しますが小学校からは再びインドネシアで過ごします。中学から再び日本に戻り県立旭丘高校美術科、愛知県立芸術大学に進学。日本画を専攻します。

濱田はよく“原風景”という言葉を使います。濱田の原風景は、広大な赤レンガ色の大地であり、夕日が赤く大地を染める風景、鮮烈な色彩を放つジャングルです。それらは“いのちの輝き”として渾然一体となり、生命の循環、あらゆるものの生と死を内包しているものとして、彼女の奥深い部分に常に存在しています。

濱田樹里は描くことはすべての命と共存するために自身の心を解き放ち、いのち・自身・表現の源流を探し求めること、そして筆を動かし跡を残すことはすべてのいのちと共存することだと(『同朋』766号 2015年より)言います。濱田が作品を描き出す原動力は源流への探究心であり、そこから描き出された巨大な作品は、作者・作品・鑑賞者の三つを一つにつなげるための壮大な仕掛けなのかもしれません。

是非本展で時間、空間をも超越した濱田樹里の唯一無二の芸術をぜひ展示室でご体感ください。

## ①濱田樹里によるアーティストトーク

11月5日（日）12月8日（金） いずれも14：00～

## ②担当学芸員によるギャラリートーク

10月22日（日） ・ 11月24日（金） いずれも14：00～

## ②ミュージアムコンサート 濱田樹里×錦織まりあ「いのちをうたう」

濱田樹里の作品に囲まれて、珠玉のコンサートはいかがですか？

現在東京で活躍する声楽家・錦織まりあは、濱田樹里の愛知県立芸術大学時代の繋がりがあるアーティスト。是非、作品と一緒に音楽を堪能してほしいと、仲間が集まります。

日 時：10月27日（金）美術館展示室 17：00 開場 / 17：30 開演

出演：日本画家 濱田樹里／声楽家 錦織まりあ／

ヴァイオリン 森下麻奈 / ピアノ 浅野真帆

参加費：¥3500－（別途入館券必要）

会場：展示室 定員：50名

## ③ワークショップ 《日本画材で花の絵を描こう》

様々な花の下絵を使って、本格的な日本画材で色を採色していきます。日本画家の指導のもとあなただけのオリジナルの日本画を描いてみませんか？

日 時：11月11日（土） 13:30～ （2時間程度）

講師：濱田 樹里 ・ 梶野 靖代（名古屋造形大学美術表現領域非常勤講師）

場所：古川美術館 3階会議室

定員：16名

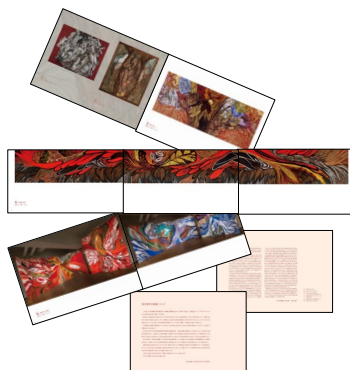
参加費：¥2,700－ 別途入館券必要

対象：小学生（高学年）～一般。低学年の場合は付き添いが必要。親子参加OK。

和紙協力：株式会社 岩野平三郎製紙所（越前和紙）

横山大観や竹内栖鳳・東山魁夷・平山郁夫などの日本画家に紙を提供してきた越前和紙の老舗、株式会社 岩野平三郎製紙所の和紙を使用します。

## 展覧会 特別図録



本展「昇華の天地」が良くわかる特別図録を制作しました。

販売価格 ¥1300-（予定）

（価格は変更する場合があります。）

グッズコーナーにてお求めください。

お問い合わせは古川美術館 学芸課 山内まで 052-763-1991



美術と数寄屋のおもてなし  
FURUKAWA Art Museum  
古川美術館

# 広報使用画像 メールにてお問合せください。

mail : a\_yamauchi@furukawa-museum.or.jp (山内 綾子)



①濱田樹里「臨界の大地」(赤・全図) 2020年  
(撮影：漆脇美穂)



②濱田樹里「臨界の大地」(赤・部分) 2020年  
(撮影：漆脇美穂)



③濱田樹里「陸の花」2003年  
(撮影：福岡 栄)



④濱田樹里「地の起源」2012年  
(撮影：上野則宏／画像提供：上野の森美術館)

## その他 本展会期中、ほかの会場でも濱田樹里展が開催されています！

令和5年度 高橋龍太郎コレクション連携企画

「川端龍子プラスワン 濱田樹里・谷保玲奈 ―色彩は躍り、共鳴する」

■会期

前期：濱田樹里 2023年10月21日(土)～12月3日(日)

後期：谷保玲奈 2023年12月9日(土)～翌1月28日(日)

■会場

大田区立龍子記念館(東京都大田区中央4-2-1)

開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで)

休館：月曜日(祝日の場合は開館し、その翌日に休館)

入館料：一般200円、中学生以下100円

日本屈指のアートコレクターである精神科医・高橋龍太郎のコレクションとの連携で、通常の所蔵作品展に現代の美術作家をプラスワンすることで、どのような共鳴を呼び起こせるかを試みた企画

### 濱田樹里日本画展(仮称)

■会期 2023年12月6日(水)～12日(火)

■会場 松坂屋美術館

※詳細は未定

古川美術館で鑑賞した後は、ぜひこちらの会場でも濱田樹里作品をご鑑賞ください。

展示の詳細は各会場にお問い合わせください。